

なめがた大使 小林光恵さん 書きおろしエッセイ 五感でキャッチ！なめがた漫遊記 第15回

古代蓮^{はす}の話題から

行方出身の友達Pさんと、カフェで待ち合わせた。二人で決めるべき一件があった。

Pさんは私が着くやいなやスマホ画面を見せながら言った。

「羽生に、古代蓮が群生している溜池^{なみ}があるの知らないでしょ。ほら、これ」画面には、羽生の古代蓮の花が見ごろのころのVRが映し出されていた。花びらの数が少なめの気高さを感じる蓮の花々。

「古代かあ、万葉びとも、この蓮の花をめであんだらうねえ」

と思わずつぶやくと、

「あつ、うっとりしてる。やっぱり、この話題に食いついてきた！」

とうれしそうにPさん。

ならば私も彼女が食いつきそうな話題に持って行こうじゃないか、と思い、「そういえば万葉集のころはまだカタカナひらがながなかったから、原文はすべて漢字で、当て字表現も多く、中には、蜂音と書いてハチが飛ぶ音のハぶい、八十一と書いて八くくいって読むような遊び心のあるのもあったらしい」

「当て字って、おもしろいよね！春夏冬、と書いて商売のへあきないいって読ませるとか。やはり、よろしく、の当て字は、露の字使ってるのがすこ

いとも思ってた」

見事に食いついた。そして私たちは、行方市の面白い当て字を考えてみよう、ということに。

しかし二人とも納得のゆく当て字が思いつかず、次第にトーンダウンして、黙りこんでしまった。

そこでPさんが言った。

「行方ってさ、ヤマトタケルノミコトが八行細し（なめくわし）Vって表現したらしいことが由来なんだよね」「だよ、あつ、そうだ、ヤマトタケルノミコトも、あの、古代蓮、めであんだらうね」

「そうだよ、一件落着！」

そこで時間となつてしまい、結局、話すはずだった件は話せずじまいとなり、あとでメールでやりとりして決めたのだった。

小林 光恵さん



やたら矢鱈、出鱈目、鱈腹、という当て字のいずれも鱈の字が使われてて、おもしろいです。

行方市出身。つくば市二の宮在住。8月に開催される「鹿行地域 魅力を深掘りⅡ～目指せ、観光マイスター～」に参加します。楽しみです。

市公式ホームページ内で「行方帰省メシ」連載中。サイトはこちらから▶



地域おこし協力隊

連載コラム⑮

今年の4月に行方市の地域おこし協力隊に着任しました、堅田麻理奈^{かただまりな}です。最初の登場ですので、簡単に自己紹介させていただきます。

東京生まれ東京育ちで、大阪にも住んでいたことがあります。ずっと都会暮らしでしたので、今回が初めての田舎暮らしです。趣味は、写真を撮ることです。デジタルでも撮るのですが、フィルムが好きだったりします。行方市の撮影スポットを発掘中ですので、おすすめの場所を教えてください。好きな食べ物、チーズとねぎとろです。ここ数年は、肉より魚派です。

さて、チーズが好きなのもあり、ワインも好きなんです。そして、私の協力隊としてのミッションは「行方市産ワインづくり」それと、行方市食材のペアリングを考えていくことです。活動拠点として「葡萄酒（えびいろ）エステイト」でワイン用ブドウの栽培のため、初めての農作業に奮闘しています。

小学生の時に、田植えをしたり畑で芋やオクラ等を育てたりしたことはあります。



▲堅田 麻理奈 隊員

【令和7年4月1日～現職】
新たな特産品としてブドウの栽培、ワインの製造、行方食材とのペアリング等を研究し、行方市産ワインのアンバサダーとして「まちづくり×ワイン」の新たな取り組みに挑戦しています。

りましたが、本当に農作業は大変で、農業をされている方々はすごいな…と身をもって感じています。大尊敬です。もともと、野菜や果物を食べる時は、感謝の気持ちを持たねばならないなと思います。これも都会暮らしだったからこそ、気づけたのかも知れません。

既に暑い日々が続いていますね…。執筆時は6月、発行時の8月は真夏でしょうか。皆さんもお体に気を付けてお過ごしください。そして、行方市の皆さまどうぞよろしくお願いします！（次号は、佐藤晶が担当します。）



- ①出来上がったワイン。畑では、白ブドウと黒ブドウをそれぞれ数種類栽培しています。
- ②畑は、(仮)北浦インターチェンジの近くにありま。
- ③畑作業中の1コマ。この日は、ワイヤー張りをしました。

